熙後集

文
104
一

へ 2
719
1

東京牛込區矢來
餅干町百拾貳番地
坪内雄藏藏

利へ10
門
號 719
卷 1

へ
719
1-3

琴後集巻十

記

清水濱臣ノ泊酒舎の記

上野の忍ノ池乃西なる方と蓋のまもるこの池乃西なる方と蓋のまもる。この池乃西なる方と蓋のまもる。

とぢ。ひ。ひ。ぬ。ぬ。ぬ

へ2
719
1

きのめる人まれ。ほの時乃あそれをきくさに。こゝ城いすゝ
れこゝ乃繁まを一てれあひをやこ。まるも語こゝゝ乃きゝ
てなるひてんをしもゝくさめきか。かれゝはあゝるひゝ。
ふまあくれはまるとるもはよこのよをやをだん四ひ東よ
来る。一日あるゝの以ひそゝく。そを強くたえるあいゝ乃旅
なす。いて世座のたゝこゝも。人ことあひむつをゝるこゝ語も。
あゝくうみ乃るれつきゝゝよつをゝて。わゝ名代とせんこゝのゆゑ
よゝきゝまゝてよとあれそ。それをも筆さゝゝぬゝして。いさゝか
まゝはゝよかきはゝ。

寛政とゝ以ゝ年のあゝゝとゝ神無月

蓬の松の記

吾黨異海たけやゝくひゝさゝけゝるちまゝのまみをいゝとひゝたゝ
ゝ乃ゝゝんをなゝくゝさゝあゝ。ゝゝあの清きゝゝひゝ乃れゝゝひをやま
来る。ゝゝ尾池の名ゝをゝゝてゝよゝ。甲斐國ゝあゝゝゝるゝゝと十年
あゝまゝ。今ゝまゝ京の都ゝ東ゝて。その公人ゝ海ゝゝゝゝ以ゝこゝ
ゝゝゝ二年。市ゝ谷の里ゝか。ゝ乃ゝるゝゝゝゝて。ゝゝてゝゝゝゝゝ
月ゝゝゝゝゝ

なすむる人あるも。けぬえせ家にこと葉をすりたるこそくゆ
かし。されも能の能にのそ〜そたゆ。いまこゝにかゝる人きそとゝ
とそ。れのれこゝる人きゝ〜。そはまつよりつくるぬ〜すかし。かゝ
能臣のうきひうさるゝ。再なれぬ詞をいとふよこそをきゝし。
されとかなゝ法きゝこと〜のゝもさゝめかきよまあるそゝ
家乃詞よいひうて法あゝこと。ゝ〜ゝはゆ〜ゝをゝていひ
そむゝこと〜の三つあり。蓬の松やきあゝ〜ゝまいひそのゝ法
詞まて。古き法よりたゝるまきあゝ法。そゝ蓬のきゝう立るか。
松山の水乃むきゝそゝるゝ紅れいゝゝていゝなり。かの天つ
星の数多きをあゝよて星の拔とかつき。うねの岸かけ並
ゝそゝるをゝて岸垣といふゝん。ちかれなすたゝひかるゝし。

かゝること葉をけゝるふゝひもんも。家人の二つのたゝみ
まはあゝまや。古くいひあゝふゝるをゝ。ゝとかあゝ法
ゝ。ゝゝゝ

知足菴記

あされそのなりはてこそそれきあいあるべたいやーき
きゐいさをなりといへ。おのすきてこゝゆゝしうあるい
まれえた。たゝあもぬすれそたいすの半るふをふつと
ても。猶のあゝしをとうゝみ。月城めつゝとて。尾上の雪城
いとふゝめし。誰うけのするへき。林ゝやとるさたゞたすす
おるさ林のすきをのをとゝ乃みおすれよるをとむるねすみい。
あゝはゝふゝこゝるをきたとゝそ。いすーへ人もいしつも。
かゝるゝとれまをふゝやすすあるこのそなかすすあき
事をたすへ。ようたゝ。ようゝ中村のぬーたん。よゝ菴のせれ
けのゝーきをのれて。菴の新松のとほそよこゝ詠の月と

すすーめ。ふをつむゆふ。あうをゝむすつきみたゝきまのみ
るいとあある時も。永さゝ拓。雪城すそ。やのさ乃苦をきつふ
ゆる業すーも。んをなんあゝさめ半るこれや世そすもむへな
おをるをすれ。やゝ人をうゝやむへきるーさもあいて。れのか
んうゝこゝる業すもあれたかのいすーへ人のいしまんこを
そをすゝそかれもあ。いてやゝはそこのそ乃かおすあもも
あるきけといをなゝへあきつゝへうもあゝさすうへうな
ゝ。おのをみすをーもたるゝとい名つきーこを。

住吉橋乃記

うはさそのそ乃人のゝをわさ。よゝ詠つよを留ゝあれと。すゝるそむきそゝふ
あゝて。つふゝーかゝきゝもいみーきるーたゝとも。いそ

んのゆゝしさかるゝよ。されい夏の日は炬火のあゝすなるを思
さる。冬の秋よひこつのすゝしさをいつすれつ面。いす一の
人も。蚊はあゝ語八月はもゝかさねをこれ。すさ陣きこゝ乃
たゆゝすはゝいてゝ冬の光し。かゝれ見まるおきすさみも。さつか
あひゝるゝをゝゝ。こんてふなき本多も。時を見るいめつゝよ
なんれにゆめる。きのはあれと。人ゝゝきれちまゝ乃。所せく
門ゝもなゝゝゝゝあゝるはは。ずをすくゝ。その城ゝし者ふ
たゝゝゝ多くゝて。月よたすのよれをゝようゝく。水よよあるい
山ゝ彩ゝすゝ。四の時乃ゆきめくゝるよきゝすひゝて。んをやゝゝき
すきひゝ。いゝもゝゝかゝゝゝゝやゝゝふ面てぬ一のゝをのこそ。
あやゝゝ不なゝいおほゆれきゝゝゝ市路よすゝゝゝものかゝ。

夢見ゝをゝ者れゝるのそみあゝす。ゝゝゝむすつをのゝ乃かをゝ城
居谷ゝゝ狭ゝゝめ。夏ゝゝゝかゝゝ清き池乃蓮葉を毒ゝす
しゝてゝゝゝ。秋ゝ月ゝゝゝゝゝ。冬ゝ寒ゝゝゝゝゝ。ゝゝて
やゝゝ水のあゝれをゝゝゝゝゝ

けちゑくもてかゝしかゝし。今のそよはくもいつるあれ
ことゝきてゑ不なきれと。やうつゝふんやすし。この文臺ハ。
ちゝはゝ桃青法師ハ。はゝめてはくるいてるかたなうと
なんいふかる法師ハ蕉のをゝのれいて。かゝのやとるよん
とゝめさうし人をうとうとうとめをゝ。古のようとはきすこい
まるいて。今のせれんやすきようとうとうとをきゝし。又
こは神詠乃むの枝の古枝をゝはくるおせるゝとおんゝは
ゆくまれくおせ。わきおめれとゝれをたまよゝうくゝひ
うるはゝかゝんゝ。大うくるよ人のそれまうとうゝ。ふをきて
かさうおおは。井ゝるゝ神代乃すれふなるんきてゝひあれい。
此枝もてつくれるをゝけおゝゝとゝもいひすてゝゝ。さすれかゝ

まれ。物をうゝくゝいきてゝもきぬゝゝ。あゝまうよえゝをとゝの〳〵む
とゝせいゝうゝゝなゝつゝゝもいてゝくゝゝ。我友影強のぬゝいるれ
みやひゝをゝもむ人なるゝ。狂乃古よ詠おきさはなるゝものも。
あゝよゝうせてすくゝをれいゝう詠ゝうゝやいゝん。椎のなゝもひゝく
のゝきゝゝのゝをゝうゝきゝんひゝゝゝあゝゝ乃屏風ゝゝゝきの
ゝゝをゝゝゝ。ゝを海をゝつゝゝをゝるゝけゝうゝおゝきれゝゝ。ゝゝて物は
ひゝゝゝをゝゝかゝゝゝをいひゝゝゝゝゝゝゝゝあゝゝぬゝゝや。

燒画記

よゝゝつゝゝのゝをゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ

かゝる。ゆゝしく事のもとを考へるよろこばしのみ。はゝ
法をまもりをおもへ。後よりわさを加へいつるさまあんな。その
ゝはあるものゝ人よりそ。法てゝ事いふて求めれ。かれてわさは
おそ。法を求なりかれおもひのかをもまゝくんをふゝ笑く。
ゝ所ゝ入ゝ人ゝ人ゝ。ゝれゝ法をいゝゝつゝ。すゝ命を
くゝゝゝる。ゝ人のゝくゝせゝて。法よりつゝあゝとゝかゝゝひて。
かゝてあゝぬゝるゝよゝひゝみゝゝてゝゆゝくゝたゝゝひをゝはゝるゝをゝや。
ゝ所ゝゝ人の詞ゝ法いのゝれきのゝもゝあゝゝゝ人ゝる。ゝ詞
あゝもゝひゝあゝゝとゝゝそゝおゝゝゆゝゝれゝ。ゝいゝ人ゝ。ゝれゝゝそのゝつゝねの
ゝ法ゝゝゝゝきゝゝゝゝの人ゝゝゝゝ

あしたさてめてあしたまなるはいとゝめはゝかて
くれ。今よりして世るをすきゝよりまひ出し人。誰うゝ
世界ゝ。此道の親とゝ。たゝふゝみあゝさゝん。

文化のはとせかみ孔月ついるもれ日

山あれすゝかきる絵を見る記

うはさゝの世よ人ゝとゝ見ゝ花おほかそれと。きゝきき窓のうち
かきゝの乳るゝ。父のゝ。ひゝゝ居でよゝゝ。れゝゝかゝさむ
へゝよゝのゝ。ゝ絵とゝ。ゝとゝの二はゝなんゝきる。京行のきゝゝ。ホ
れゝもゝとゝやゝ。盃ゝとゝうゝて。ゝて。ゝ記のゝ。ゝ銭ゝ見ゝたゝゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝうれゝゝゝゝゝゝゝひて人ゝ乃ゝゝゝなんゝかゝゝゝゝゝゝる業ゝゝゝゝゝゝ。ゝ
うてゝゝは。ゝゝゝゝゝゝゝ

ゆゝしてむれゆくその趣もすぶるべき気くおるよ。多日四のう
てーまほへまいまーのうとーといひきんぺ。ぶ
かくそと出たゆひをぬ。みのかふれ一すもぶ。ぶれもとともむふ。
いくゝお星のさもちともつるぶ。又その為ゆく来るものそ出そ。
ゆつくとさくうもきまるかゝ。その八十浦乃くまふそ出ゆゆかと
清ゝみ。さゝゝ波よるおきはあかすぶ見ぶ波ゐくたちゑ。
れとゆさるかるよ。舟いゝくさゝとつゝくるあかすぶ岸の
まれゝいまゆかて。水ととて涼すぶそゝひゆゝぬ渕
なるへゝさて水を西ゝてゝゐゆものかゝよ。大きおるやゝも
いゝるを清ゝねとくゝきかと打ゝひゝきて。おすぶ石を
はゝとやゝ。さゝて水のこゝかゝるはおやゝき莹ゝ見ゝ

れとろかるゝ姫よゆひるゝやか。又ゝふかゝゝふ人あかのるい馬了
ゆまゝくゝ。あるゝかちよりゆくゝ見ゝるいたきゝおゝゝ。あるゝ弱乃
笑ゝるゝゝゝゝ。みゝゝゝ花ゝゝ。つかきゝそ乃さ面
いひをつくゝかゝゝ。ゆて水くゝ何くれの魅いかそゝもあゝん
うゝ。かくゝとゝまゝろよ山川のさゝるゝだゝ一ひゝの紙のちふ。
て面やゝよんきゝひゝなるいそよかき筆の法ゝそゝよゝきそ
かくめつゝゝ形ゝをいつれのふいをきゝ乃ゝとゝろそいつのそゝゝう
かるゝ人のゝつゝしおきゝかゝとゝ。つれぬゝそゝゝ。きれゝされま
むゝゝ。あゝゝめもやゝ。ゝちはゝゝれてゝあゝよおきゝれとゝい
いゝ久ゝゝゝゝむゝきかゝゝゝねいゝとそ。そのおほゝそゝとゝるし
れよそ。かゝゝやゝつ。

二月さくら山ぶきなどの花をめぐる記

大伴の宿禰のぬし。今年春のそれきのふをのうれ。遠つ
おやなるほくしの乃みこともちまゐのぼりて。あるじ
らくの花をみるよ深こしうぢ。そなたて法きんの友どもん
なりきるよつよねるよ。たまよるあるひおどもおひつどそれ乃
きかりをもちくさし。そのかぜさもえんとて。あるを
ぞみことあり。お設もたまくきの十日あやうかるよかのえゆる
忌への雲を狩ぶすえけるかおりうちかすむもの指ともは
春の光うちうちてそこをとおくきゆる雲乃香りも
人くといとふうはあくてうれをよなるおうちのすめるも
うゝ設ゆくゆなるあ不のはえ乃ゐもとかれぬそそれ

きてかうふすまひなしうゝ。杜のとほそ雲の影ともいか
ゝとそきゝゝ。杜の法ゝゝある竹むゝをはるきゆひそし
て。せおいるゝあれなるれいさたよゝ。石のゝゝをさひちて
さゝなゝ法きゝ。庭の法ゝいとひろゝなるよう点そへ
さるゝ本の法も。ゝとよ春ふゝりあゝて露をはるを雲よ
きはくゝるけたひこのそれあとゝもたはえ法なんある。かくて
ゝをうおそをそむきてゝめるかひあきれとて。そゝゝ
めてくつかゝりたゝふのゝとゝまゝめすれる。あゝゝを酒
さる孔ゝりはゝなひ。かたゝきゝゝあそて。
梅ゝとゝそれもするゝ大伴のむゝゝはゝる岩なゝ
おゝゝよ。どうゝいてゝるゝどゝあゝ法ひとゝう。

大仏の色ゐる香くはしきやとの梅むすのまをとすれ
やいとるかたくきしるびくめくるほどよ。風さえやうまし
れかまて木陰もくすれくえゆるよ。ゐくしもあくぬ風よ
すはひとちくるを。色ひとすむるはすなるのいまんかるか
し。人くこれあさしあひて。ゐるいやるれよにうちそきて。
のこて乃後をとうくぶのるい苔のむしろよかみて。雲我
あをむくとくちすきくびいつるもはすやを物のきれあくし
くるいをまうしゐめてき調の名おるもをちよあひくるふ
ふいつれをのしかくぬいあくきうきうらてやかくあをひのを
たのしかくるも。そのほくしるき人くをいとをいるしのほく
るかちかるを。ふ乃んもきうだゆうくんとをれかゆゆ。されを

ををひのあかをはをしるきぬをうるかくはをを
後のれるひをくはるををを。月の光をををかつくく
あるかいはく。

山里を花をえる記

一枚のをひねを行あうぬるのかくちうちくをとうをはくん人も
あやをれを。をいるちかくくんをををのたるるをいを又
かくく人めくをる乃くかをあくくをををはくををれを。
学ゐ乃分をあひう人いををやうれをををををたくを
のけをくひうちくあうををきのふをくはたくくをををを梢
ををを。雲ををををををひおほつうかくかをくくををををかををあ
くたをを。やくおう来るをくかををををあうを行をやうく

きしのほる日数はえやれたる。小家かは堂す彩揺たてきたる
いちしるくゆて立なるふ指の雲をいとまるる弁
なれくだ。たしか面ちえうちかるよ。風すしうもたてそた
たうとれくちの来なるる。人るうちを道をほれるおて
もてゆきいあれんつくしのさくてて人こおりみぬ。
ちりすてし人をとるむるやるさくちるをれろ
おりけとそえる
山風ゆうせかをてそはくるを美よみーきちい
うかをよさはうやすふほをよ。みるまうおみるだを
来るあっぷるうちるる桜は文をきーるをみて来て。
都の人たがたくよをおもしきしっをとていはを。

どうとてえれを。
ふさをふ風いうるんしちらめ月をえまてか一うおるも
あるをてーどあふい都をていひおるは使なるーしとあ一を。
ちるもをちきかおーを山さをら風をかをふまる
しとやすぷやををうろなる砂ををてをのうあのは独よ
かよ法きんやをつぷをふいうるんのをてーおるれい狂苦を
むーろなるぷがーをちの酒をるれおるるれの物をるて
来てきるうかみーていをせるを。
やをるるをを山のうんを住やのをるを地名を四月をまる
な葉。か面ーし
人ーうるるをあを代名をなれ我やんたせーをれの

めさきぬ。かくてちかきことをいひしらひて人と酒さしくみとと
ほ。谷水のかうばしかすこしたうれたるのこゝけるこゝろきて。
ちとのこる尾とのふち。狂こゝろをしかほ風ぶかすこゝを
もこゝをはさへはうい。さしこゝはつとをむこゝろのこゝして。
こゝろ飛こゝとかきこゝ日も。きかさこゝはすこゝをこゝこゝ
さまきり。かゝてもとめえをこゝつ春こゝかせあれ。
あやなくわこゝる花の日数をぞまこゝるいなんよ。こゝなる時
こゝろこゝ鶯やこゝいあこゝし。ひのそのかまちいたしかこゝてのこゝもあ
こゝはやこゝきやかこゝか人をこゝもやすれてこゝれさこゝこゝふいひ
あこゝるこゝ。こゝひこゝをこゝてこゝるこゝのをさみなる春こゝ。
まこゝさこゝふこゝ一夜こゝ春かこゝこゝちのまこゝひい人を
こゝろこゝしこゝをこゝはゆこゝ。

春の山こゝ

春雨こゝはこゝつこゝて志めやかなこゝよ。ひとゝ日なかき春のこゝちふ
なこゝこゝれこゝ。古きそのこゝこゝしこゝもやこゝこゝてこゝうちこゝこゝるほこゝ。き
けこゝこゝこゝ

かなしうかなしんめくらせい。むさつきの老木のれいの花
あきらかたうはつて。幕かくりしてあるなんとの
れきし。おもきるさくらもの芝生いとはつかなる。いまを
盛とうほいあひさる花のかをさめさせ給へるい。中務のみこと
ゆゆしきる。心風さと吹来てちるまつのきそいさかくの雪
をめくらしたどいつかいすかるよ。春庭不知秋もしろく舞
いてさるうちる神のまはひをたくなるしやさまかさの
れまくうちすれてかへるいはもしへるくめてくしと
絶とうめくれつぶのいまちとう給ひて。おそいぐくせうた
はさまふ夢のしさすか。わくは江人。けもすくひと
しきう。赤蝶のさそひうるはしく。雲のひまうつみられ

いてゝ。行のあるうちひちるゝ。えもいはつきくしゝ。やそ
その四はは一人をもしてゝ。
ゆさしくあるまおてゝさきそれて不の本はつきをよ
くくさんとはえ給くゝ。どうあへはれさうも。はかあるよ
ちえたやゝ。
赤蝶まもはまはとくめやくくゝのあるぬを春を立てよ
くゝ詠そ。はかくくきそひあひて。春雪特花集。陵王。納
薙利なゝすきくくゝ山をせ給ふ。今人をかなくまもおかくまも。
ものゝ上をとゝをえくくたせ給へをいす人ていいさくぬはかも
をはくくしゝで。野山の本をもなひき。雲り雲をもかくくめ
つ角くなせをきる。さる花ふとう新くくむつひせ人給ふ

なるの。大くるのくるれき古きみことゝ。かくこゝらはたらしと
いとみかくしー珍ふも。をすしき清なうしいなりやかくてみくふ
清酒たてまつるを紙ふ。心ぬのをかうかるをつくをゆゝて。
とゝたくるの根をよせ。白かなれ龍みる桜乃枝をおゝ清く
ごうをくひて。をとくはくうとうんめをとて。れのれる絵
面を。いとんもはるとをてきまかりくる。みくいと與せさ勢
たゝひて。さうはよくをせ珍しぬ。おをくよくへをて龍をくうかう。
わの桜名をれ一宮のいをーへのをおゝばゆる花のをう
つを。心ぬのほてもくる。三をの焼とうをてたをくうかを
いとゝもおくをきをくくうををおほくをーみくををのをはをひい。
名を助とを咲きいくへきくるいと大きやの孔ををゝみるくる。

琴後集十

ををきすうれをあをくうをてくれをみの糸をつをうをし
くるくんくうの壺。名くるをき孔めくをとられて志清を
の火とう一をくへくをのとうをれをくをくるのをうかの
地くきのけーを。をををかくれくる。
も孔ををすうれをく咲をやとうせい茎のをくくもうれ
しかくはー。聖ををつくーをとれをひをう珍をかるへし。
この助い名をき性ををわ孝れい酒くうへて文はくくをを珍を
今ロの乃心をみのくう孔を。四韵の句をれをーろくーつくをいて
くるを。をの孔れ人くをうをちのへーをすて。いくくをいるを孔
をていみーくをてをへをき孝。ろくくをるかつ孝珍へを。をひの
見をとうたくくーくを。ををくつほいをくくはくをを必のくをを。

きりかくつゝゆるされてをすかるもきゝ。新やゝ山のさもてゝう
なるまふ。今いまて音聲かるゝやあゝんひるゝるも大も
まゝ行こゝよゝあゝるゝ。あまりつゝ耳おとろくもちゝ山元
るゝよ。ふゝあさゝえんゝされゝ。い初ゆゝちゝくゝらゝ。たる雨乃
晴ゝなゝくゝ。彩の玉水ゝゝゝるゝるなゝきゝ。はゝゆゝ
なゝをゝなゝゝ。花わすれかゝゝて。

花をゝむ記

清きゝゝとゝゝゝたるゝゝゝもやゝゝくゝゝれるゝゝはゆ
ゝゝかゝゝゆゝゝとゝゝゝやゝすゝゝゝゝゝきゝゝのゆゝゝきゝし
ゝゝゝゝゝ

とそこらつゝみて打ぬぎ。ぬせきちさきの巻。なゝ井堰の一きを
垂こてなれど。やゝあゝまりてはとゝのおるかゝとゝめつれ
は。水ゝもあつまりて。嘉のゝゝすゆゐたゝなりけり。すて
あゝしたゝ乃ゝやひゝさふ人まで。おゝて。その為好てゝ人の
人なるゝいとおかさてだゝおのけるゝかる山里のまゝ奥を
うはゝしゝれゝ。らひゝのかゝをはさゝるゝう畑よりたくゝもお
しゝて。かつかゝるゝあゝと嘉ゝうちみゝれるいとつきゝし。
垣ねゝあゝまてい田不廣くゝうちかゝゝしゝて。せきいれる
水いゝと清ゝゝ流ゝるゝ堰の川ゝゝかゝゝ音ゝゝたゝるゝゝ
しゝゝゝゝ流ゝゝゝゝいれゝたゝゝゝゝゝゝゝれゝゝゝゝ。流の水
ゝゝゝゝゝゝゝ

○氣亮

かゝるおき人のせうとなりてあやしうまれて一つ屋にて
やうゝひとりもてあそばるゝ志すほの。狂ひつゝかゝるおぼほゆる
わらひもちかすゝふほんそなれる人のまことかと見ゆる
ものあるてさゝよとそれおよんあるゝひのおもゝやたゝよゝす
ゝ殺せおけるさほうろひもて行きと狂ひえかゝる恋の意
殺狂ひえて志ゝ後ゆゝけすゝもを志ましい罪ゝねゝとあるは。
ものゝゝよゝもゝひきゝ休やうてあえすゝ女しとゝゆる
はをうしたあゝ。今まゝしよはきゝうゝもし城
そへゝやとおゝてろほんなる一し。ちるゝはすゝめ。後世
はゝゝ後。夕ゆゝてもやゝれて。義のひゝすゝゝも閑ゝ
志をれいてゝるゝ。そはねひとゝのゝてあゝぬゝ不なゝ。ゝ

○さたる。さゝあのゝ
とすれゝるゝそゝ

そへゝゝすゝゝてゝさゝすをいるゝこれもんあゝぬゝ。狂ゝ以
とのふあてやうゝるかゝゝし。うゝゝたゝよかゝすゝ日ゝとゝふ
海ゝゝゆきゝ。けやうゝゆゝろふを見えゝめてゝよゝゝ了ゝ見ゝ
あゝゝゝのおゝゝる。ゝす後めゝゝゝ以ゝゆゝるはゝやゝゝゝゝ
すゝゝゝる。なほ今めきたゝるゝゝようゝゝもゝつゝてめやす
きゝれゝゝ。ゝすゝゝ以ゝをゝもゝはすゝてゝゝはゝおゝゝれぬゝゝひ
ゝゝる。香をあせ色もゝゝはゝろひゝゝゝ。狂ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝすゝゝてゝゝれゝゝ変ゝゝも以ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝちゝとゝゝゝゝゝふゝいゝすゝめゝれゝとゝゝゝゝにゝつゝゝゝなゝゝいゝつゝし
ゝゝゝ以ゝゝつゝゝ。あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法華経かく人の名れあるべんせのあるはーとぞ
一時のふれうへようちおうの門弟きそのなれるまでーう
もそのあるもいひしらぬ法華のやさるハ世こそよりて
妙法をうれそのれよ高の名れあさはーうすくぜし
三十四十れこかるも。先ひ出られて後のまのあるれ
くもをーうかるもていぬるもかるやーーさいんかる
かくそれかゆる。さそれ教れのりくよ。分ることのその
かまうのきりひくさそしもおぼゆるぷくてりかるちき
まとか。

うきろふをのうへくやふこせやられまをるてーーま

萩をめぢる記

未こそものきうすくれよかるいおるよいとこ病ちいい
分れまるはまるのうくてられくめてのーーにまるとあ。小
のまて来て。萩をやくぢうのるるぬるとるみ人尺十宗は
杖ゆひくさるかしこの法寺。きこの宗をれとそかくよ人も
あくうれゆくそいよるふさくんかくてのくやをかるを
そのうせそ。ぢくるよんいうこけとかもまゆるんさるんそ。杖
むくくぼともはるのれるへくさるあかるよ人をーきるんも。
むつうしかるへくいるるぢいきやつるいきれひまるへる
まさるかるすれ。見ものるぢ河をきのか
るるぢいくはくをあくて。めるいそよ棹きーとぶこ所
かうとへるへる。ぢうきもくそはこれも四かれるやそ。

[illegible]人の法華せすゝめられまゐらすて。再後乃ゝとも
[illegible]ぬとゝてゝ[illegible]ゆく。[illegible]乃
[illegible]をたゝて。秋の家[illegible]
[illegible]。門を一人きたあるゝとゝ[illegible]
[illegible]いつみさの形[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]の絵[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。

月の宴乃記

秋ふかくなるころ夜のれいろうにいろいろよりもやくるの紅葉いさゝかて
とゝしい嵯峨せちゝれあるかのみきりよりさはしの出を
えて来れるとやもてくれ紅葉せ紅こいこやさゝふ今夜の
月をよちて後ろいろ嵯峨るかいろいさいくへかる紅
葉のひさしいつまとかうしいとまれち紅葉るうゝ海さ
あきて代帰すもゝくちゝ月ゝゝ紅きまてさしへて杉も
とふゝふへへふへへるあまちゝくゆふゝかゝやうゝさこう。
みゝしろきつゝまたまてそほえきる。みゝとのひとく
そ月ゝて紅くん榊ゝとそ海流ゝとたまるゝかゝ
月ゝるゝゝ前ゝのこゝ海ゝくゝとゝゝるゝとゝつゝふ

たゝしめしていやきよゝうあるわゝ紅。ゝゝさてのゝやいえせ。
方ゝきてかちまけあゝくんゝゝまをゝかゝゝ。ゝ海ゝの杉ゝやや
あまゝこれあゝ杉ゝとてゝ紅ぬ。たゝ大い男のかゝうゝ。たゝ
中の男とゝんゝゝめきゝるゝみのゝなれゝかすたゝしあよ
くれの物もゝうきゝたゝゝかゝゝのゝくゝゝゝ海ゝゝ
むゝうたちかゝうゝて。杉ゝくゝはかゝいつゝゝゝ海ゝとゝて
いひゝゝゝむゝこのおゝゝいゝ。なゝ愛の後ゝゝあゝ人ゝゝゝ人
ゝて。物ゝゝゝけゝゝゝ。ゝれゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝ。ゝゝきゝあゝゝゝゝゝあゝるゝゝ。

たゝ。むゝゝゝれゝむゝゝの糸ゝてあゝゝゝゝる海流ゝ。
ゝゝの海ゝゝゝゝきゝゝゝゝゝゝゝゝ。巣の家ゝゝあゝゝ

あま。ふね波うちきたるよ。あゝまよかきり。
すはの浦の磯乃ゆく〳〵つ火んしてと月を見るたすてゝはけり
右。せんかうのあゝはきるたいよ。糸してつくるわを。
あまうこうをて。浦よりてゝある家あり。ふいゝ詠き忘ず
よ出て。たのあゝよゆくつく。
月をくるさゝまの磯乃笠やもみやこの人を思ひてしかな
月ゝあるゝ浦人乃んもさる事かな。波よあゝすかといひ
きん。あゝれとも心ひあゝれいとて。持とせり。
たゝ水いとゝはかうゝ風よかうれゝよ。橋八を取て水
やゝして。橋のもとよ杖のふゝをとうゝ。
八ゝゝのゝ切水乃ゝゝあまゝ風いかゝれとゝみるゝ月きる

太。里とれきかる川つよ。ふせきとて舟はゝをつゝ
て。ゝ切人をゝゝせる
七賀のゝきけ舟はゝをゝくゝ波ゝ波ゝ波ゝ月をみてゝか
水せゝ川はやゝゝん新をあれと。舟はきゝ波をれきゝん
ゝ年。さよしのんなれとて。太かもゝゝ。
たゝ板むゝのゝゝゝ小関屋をつくりて。ゝよゝゝ川のかゝ
きあゝ。
おとゝ乃関のせきゝゝすうもを秋を月を清ゝゝゝてゝみる
右。板をゝゝのゝゝゝ
よゝもゝゝるかゝゝ
ゝゝゝゝゝ不破の関やの板をゝゝ久ゝきせゝゝ月ゝはゝや

あれすゑ後いといらしもてきまむすゝなれいとよ久し
きせのとはまかしくれと。打月まねぬ雲きゝんさきとく。
月をゝこつまとうもちうゝすゝる。

左。おりゝをいさゝゝる涙ゝをゝ波のうゝとせ。
きゝ砌とゝ光をゝ法る波のきゝゝのゝ海乃秋の松の月
右。黒方仕法百和香をもて。爲のうゝもち。三をつゝれる。
色ゝもゝ松ゝ新ゝゝすゝれゝゝ詠三のゝ海の波よてゝ舟
月の新ゝあゝゝ。西の空のゝ山なを思きゝめつゝゝ孔ゝつゝゝ
人ゝいゝあゝをゝ松ゝゝ法ゝゝもゝゝ。

左。鏡をゝゝゝ川ゝ。波のゝゝゝきゝて。水のす
めゝゝゝ詠ゝせゝ。

名ゝゝ川庭ゝゝゝゝゝ月ゝかゝれもけゝしゝの堀水

右。山川のかゝれ庭ゝ。ゝゝよ月のかゝをおゝゝつゝ
ゝて。旅行人ゝあゝ。

立かゝ爲ゝ人ゝも告ゝ新兼川八十瀬の波よやとる月新
八十瀬ゝゝゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ堀水ゝゝゝゝ
ぬ爲き新のゝくゝれゝゝゝ。

左。山本の里ゝ。はゝゝゝゝゝゝ人ゝあゝ。

秋ゝゝゝ里乃月新すゝる松を伊勢のゝけゝたつ雲ゝ

右。秋野のゝ海をつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いひ[illegible]るかなーやとぞ。ぼたのつゆをまつ。

た。山れの。風まぢるわさるかさあり。

時の[illegible]夕みる雲も[illegible]きされて月をそもる[illegible]しの峯

大。古家。[illegible]脇[illegible]つ人のあそべるかさをつくれる。

いま一もかくや沈きん[illegible]園の尾あやの秋の秋の月

雲ぬ[illegible]ぬ[illegible]ん。月まんの[illegible]山の[illegible]れど。[illegible]人のむすれ

きつ[illegible]さよ。

た。かあ[illegible]水[illegible]く[illegible]。人[illegible]るかさあり。

かく[illegible]つ[illegible]やとりいすしし[illegible]井の[illegible]月の[illegible]をうして

右。井のもと人[illegible]。[illegible]。[illegible]なとなり。

[illegible]や姫のむすこ[illegible]きやむの[illegible]乃[illegible]井の[illegible]やと[illegible]月[illegible]

いつきの[illegible]れる事。月[illegible]れ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]とう[illegible]ん。月の秋いまして[illegible]。[illegible]れを[illegible]

れ[illegible]さん。

た。水[illegible]る[illegible]。木の[illegible]ふ馬を[illegible]む。

[illegible]なの下[illegible]よ独めれて思[illegible]よ[illegible]しい都人かえ

大。直[illegible]。[illegible]人。[illegible]の[illegible]れを[illegible]るかさあり。

[illegible]やう月沈[illegible]る秋風よ霧[illegible]きむ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]萩原

雨[illegible]ぬ[illegible]。[illegible]。[illegible]袖を[illegible]。右を

かちゃ反。

た。[illegible]きと。[illegible]の[illegible]。[illegible]かさゆるかさあり。

然然や後の[illegible]やよて[illegible]月を神代のまの[illegible]ぬ[illegible]

右。れいのおうらてるやまぶみてくしの水かうれて。志ぶん
なさけしく〳〵ふるさと。
わきぬ〳〵こころのやまを花見清水月もいくせう新やとしの宮世
神代の光とあふぐも。恵しるしなれ身をくむ。ぶつれい
かしこうなきさくむ。
あくて世のひとをたのめれいだおなじくうしなものいもはあるべし。
うしまたきんだい君よりこのこゝろ。中の天れちんが納言袋邑
はるうちりきもはゆるさるものさるもれおうよ。ある人く
とめて。伊勢の海なとうとゝせのふかきうしきくみる
ひくまは。彩とうれふるこゝをうかゑしうたふこゝ。ぞり
まこゝろとゝむ〳〵なんある城。久うこの月は教もかくこゝ世。

とゝ〳〵いひあへる。なをひてて。拝あまくこひめくるこゝ。
月いとや入うこもうなうぬ。宮のいとみこと右一つかもれ
ぬ。たのこのまきこゝ。まこゝ日の秋をとて。人こあれぬ。

八月十五夜菅宣国すくる秋の月を見る記

菅宣家の月乃まゆい。年こゝのちまなれもふてふるれ
ぬよのこゝはなれど。きよくいも例乃人こゝ。て来こまきのさるい
るのくこゝたる雨の名綿。れゆゑ。をもおはえはるして
さやきよ光まちいて世そ。いとくんをなきを。文ゆゑいかく
はこまはあこゝをぬ。きくよひを祈てあのして。はしかと以ひ
はゝ。いよんむなこゝうかまて。そこのこゝもまゆくこゝ
いとわてだ〳〵や。と青い名よ。月国まの名れを。いこ清ふか

よもぎのもとまきまで。淵芽ぐみ。やうゝ色ま
さりゆくもの。なほあるぬりもをかしけれ。
それ春かき月をいふとは。やがて春のさま
かすゝこそ。春の新しうとくやさせもよせめ。
かゝる

秋のふみ

都の旅居乃久しうほどへぬるまゝ。
乃せうれて。今いむつまじう
年はこゝ。ゆあひる。法師の。法師
はせうすくなうなりて。侍り。心がつきるあるこゝろ。霧
色もくすれうけるを。あれ人はそのこゝろ
時雨の雲とゝもよさそこゝ

家をひきこもりて。法堂の東はしをかきそこゝひてこゝよきそし
やすゝひ竹へ先ふるみ乃ゝ
なとゝこゝてこの雲をあへ
竹みそ。ぞよかつこゝふるもなれ
ふるよあるまて。言葉の秋乃こゝ
はしめとい。そうこゝてさけ
ゝ時のまを言ゝ。ゆめ
侍へ。ふゝもをこゝ
ふたはこの年まこゝはこゝ
なこゝはのわこゝ。のこ
年ふい光乃道ゝ

せんとて。木おろしあまたすがりて。きて。ゆ
かせをしらゆきの。ゆきの。ゆせきの根。いとかとたてのいとあゆみ
くるしまよ。かくしてきもしたひのおるかてけふ
いてぬ。くゝるゝ木もちをはらうて。はるみもくゝれ。花の
むしろよりたのみてうるふ。ゆるも言葉のかゝいに。ゆくむら
やまゆ。絲をたのたゝんやうて。日新よかゝやきあひさ
めもあやなり。蘭をミやれば。大ゐ乃河ぞ。ほゝ。ゆられてゆくさ
の布しらゝ。ゝうんやうなるふちをうゑる木の葉ぞ。くれ
なゐ乃ゆるるきゝせるゆこゝしかのゝゆるむ。すいの山ぶ
こゝをよきこゝをといひ。法師のいひ。ゝ。これゐんふ食の
みなる。ゐくゝ中務の親王乃。かくれゐ志め行ゐるおとも

きゝえさるかの定家のゆうちゐ汐。きのふをうすとゝみ
行ひきんも。かしこうて行をと。今はいうれ。を行とていさと
うふをえしゝれ行くゝ。又二条院とてたゝみをき後撰の行るい。
法然大徳の法ゝゝあ後ひをゝ。そよゝのおゝゝりつすれをおと
いふ。さるはあをれゐる法物語ゝも行るかれ。ゐるき世をかゝるに
はきて。おのゐれ乃をおむゝ。をくみ行をいかの延喜乃
みゐをの秋乃こゆきのゝゝをゝかゝとふをゝしゝうゝをえ
行れ。そ乃かゝ名をたゝ人ゝゐ法とゐふゐるゐてみゝゝのそれ
まゐくゝうゝひゐるる言の葉ゝゐ。秋乃夕ゐまれゝる陸う
行ゝつるゝ。ゝ。ゝなゝうゝゝいゝ行ゝ葉ゝ。鶏うゝ時
うゝゐゝゝひゐゝ行ゝ。ゝゝの山河乃むゝゝゝかゝる世も

おもれて。今もめのまへよりくるくちのしげるなといふさかさう
なるわらとみきてあるのみなとのれのいとしふるゝゆゑ。
ゆるたみゆまよの事とおもひ。此木はあるにやたとへいへる。

みゆやまーむーの林をいふよりとゆるる入江のれのまはしや
やうゝふを。法門のきして。れのあをやもとはん。みよの取繋も
ちろあの事をえゆるをやて。

小倉山いよるみゆをまもちかはよ峯の取繋をすはんこと
とをいつ。なゝきをうてゝ酒さうゝおさんのれをほちも
人なみよあいをんとゆあゝんかゝ京ひとつにすをみいて
されとまさかゝれりおまう文をのこゝをらあをねいまるは
かゝに。うゝて日新やうゝかゝふきれて。夕をはるる後の

きはをふゆ之をれい。れるをんをほゝをおかれと。
うちつれて法堂をかへつるぬ。ゝをぬ。ゝをきをの山をみの狩あるぬとを
かとゝ之を。あるゝのわまもをゝをハれをれ。あをけ大井をまるを
さゝのはやんとあれいをゝは也おせのゆみををんをやれを
いひて。を抜を森ぬ。

初雪をきゝ記

秋の夏をゝの之はろいれをまふ。せつ種のすをひをいをを加ゝ
おくををゝたをとゆの小田乃穂なみをかつゝを。はををめて。
海をきゝをの小萩を。をの之ををはふかゝ後ひをゝをれる露乃
をはひれ乃れを。おひ。いつれあをれをを之をゝをかんををける。
をを住夕月のおゝ海をを立をゝやもすゝゝんゝを遠を乃

[illegible]うちけしふなるい。わすれぬ[illegible]ゆあへる人となりけり。いまは[illegible]
[illegible]ゆまけたむ〳〵雨の名殘乃雲ハ殘るかちあるふるこはを
およかむ山ちくすゆひも月紅葉をもやられてやうく〳〵あら
[illegible]ぬ。山を京はかすみ[illegible]身とにすたこれ[illegible]
峯[illegible]る一行のこえさ[illegible]れるい。志の[illegible]と田よ[illegible]る
る〳〵し。[illegible]よ[illegible]の[illegible]い[illegible]もたなくなる[illegible]おといひ〳〵ふほ[illegible]。
一人[illegible]ひ[illegible]く。[illegible]ていす[illegible]雲[illegible]のなら[illegible]おくおほえし
を。秋[illegible]ふ[illegible]く[illegible]よ[illegible]まく初[illegible]ふ[illegible]つ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]いさら
[illegible]もいふ[illegible]。す[illegible]て四の時。[illegible]ものを[illegible]を[illegible]て[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]き言の
[illegible]を[illegible]。[illegible]ろ[illegible]ふ[illegible]を[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]き[illegible]さ[illegible]ふ[illegible]ほ
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]を[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

ふむ。あとをとらすれぬ人なれる。

かるのゝ[illegible]おれ[illegible]ら一ぱゝを[illegible]なき[illegible]たゝひとも[illegible]せ

ほゝしゝきゝゐるにつきやと。人〳〵いとひあへる。

山さとの紅葉をとゝる紙

都の旅屋をたゝつゝくゝのとゐあけて。草もいつしかと秋を

さゝすゝくしまき。ゐゝゝみさとゝゐあき[illegible]のなけしの

たゝなしぬるも。えゝ山のさゝゝをゝひゆゝゝれる。たゝやう

あひきれてけ。秋籬の紅葉乃やとゝとて四まぬの紅葉

も。ゐゝゝたゝゝしきゝ乃法をきゝて。境嶽のあゝは

うゝ世のちゝを乃うれゐて〳〵。ゐとゝいすゝあゝゝ人乃

ゑさゝゝゝなんゐゝくゝもゝ。ゐゝゐをあゝゝの[illegible]乃つゝ[illegible]あれ

んゝゝひゝゝゝゝ。苔ゝ[illegible]場をたゝかゝゝまれる。板乃

の[illegible]ゝをゐゝて[illegible]ゐる恒[illegible]ゐゝゝゝ[illegible]ゐる城。

ゆひゝまゝくゝねゐゝゝゝ世このけゝめなんあゝぬゝかはゝゐの

ゐゝゐおほえて。萩藤のゐゝまふかれゝゝる。今いをゝゝの法

さゝ絶ゝまゝゐとゐゝゆゝも。そゝゝろゝあゝれすゝはゝゝ棲なゝ。

くゝゆゝゝゝゝ。芳のゝすゝゝもゝゐかゝゝふゐゝふゐあゝれ

いひゝゝくゝゐゝのゝ所ゐゝ乃ゝゝゝゝ。あゝゐゝまれゐ一枝ゐゝ[illegible]

まゝゝゝゐゐゝ。[illegible]ゐゝゝゝゝ

ゆくすゑ　みやのてこゆきたりつるをとりてみれば。あ[illegible]の
ひとをもくまもとる山ちのきよ。入日はのうふほひて。空さへ
さやるはすゑ　なるか。山　[illegible]るまおろして。ゑもさすあへぬ
すてたる　[illegible]めるいゆくすゑ　[illegible]やをとそれらめるかくて。[illegible]
す　[illegible]みよりひやるをとそのもて[illegible]ちとて。

ゆくかたいとなをはるをとて天乃かなたよりあをやぎ[illegible]
すとむすこ　[illegible]のみすとの。[illegible]舟とあ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
いへる。

大佛舟つなぐ網あかるすたむすおわんてちるおなをふ
格のつめすいふ。いるすとる寺あるよいまていまひぬ
るとのかと物をひて。はるんなきあるしの庭ハ苔[illegible]も

みえぬたちかるふたるをきるやうれをこれなんきる
るる禁をかるるやうくこれゆきハを青いこのみるる
ちかつて。ひかけ[illegible]る顔の雲をわくへきとそ。[illegible]
いさるいとなすしたを青ゆきこれの雲よやとけかれ
やをみふも。せすて人のんやをしや。

縣居翁の古墓よまりて秋をしむ

伊つしるとをもちむる秋のををいのこ[illegible]ふをきるをこれ
をあるる[illegible]のをほ[illegible]ふなるや。[illegible]墓をすうての人々[illegible]し
ほるぬいなし。[illegible]をもいるくちすきて。葉もうゆろひかち
あるを。これをるをそみ墓のをよるむをて。[illegible]なるる
苔のむし[illegible]ふいみて例乃むすのすとるをふすしのを

いつくぶ。多後きみの素性とのゐひきん。ぶつの秋すとしてあれい。
まさ者ゐさおうとぶのまくよとうなるもぶとあうれまこと。
年とよ秋よやうるといひ〳〵てふとむーやとばさるるもあん
切秋のおうちのこやさるる又世たすめなるぬ泄の〳〵霧
とそうちおうめをれい。松乃陰をやうくれるめてゆよ〳〵をはくる
綾の鮮かきうふ字ゆれと。うれ者れるもっきかてがるや。

妹くりの巣をめつる記

おもふ友きおぼゆる中よりつきのせをのうれいてぶすと
の巣乃故さえたるかるもぶられもえ吉田乃めっぶなんぶそよ
こうふきめすーも者よいひあ〳〵を者るそもく〳〵せめーのすむ
おうかるさを。月かまのすをいみ西。きうれ切と野み岡

ようをふかうをかをもるをもいつあるうれやみの
橋の信ゆむ市の大路ゆも者く。又松木きるこ山のおくのた
くひだくねを。我を人えを往ゆいつ〳〵深をの巣がすきせれさす
をもこすれちゆうちのけうーきんのあるくはーまだれあひ
はーすーきにみすよかを者をきるをはぶるをひ思よなーせし
園まのうちを者をるつをををひいすよんぶあうおんとそはるとる
むーーしをおれーんよあおふをおいてを四まめる。をうーしを
すーるかをふおるを市のをるんをうみ定かなきよ。はるの乃
秋のあ者を彩の霧をあるーをんて。夕鳴みるれをかをけ
るるをの光を。狂すれの者をーのまて。入りをおんるはひ
をるかくて人く苦をむーはるおり長て。古をーのひいまを

かるらふとよ。あるものいひ者〳〵。やまみのやどよ世菊さめつゝ。
ことけ。ゆひつの家ぬもしめよおこうてよりおだ〳〵ゆゆれ
はしをめくまてゝ。天つ星うとうゝ。ゆ語の霧をふてゝ。
ゆ年ゆるゝ心ひをたゝ者〳〵ゆ。ゆることゆためゝよゝか
おほうあれとゝ。ゆるいれのゝとゝのゝてゝきるゆるゝねゝゆゝゆゝ
いゝゝ。たゝゝゝ

ゐのもとにきそむるそのんとときんてはさつかしこのあそはう庄。
こゝのと里。義とゝしのき。ゆきぼんとゝとりて。名くけ。きはとも
とあてゝ。ゆきたくひなくひたまふる人きれ。おとろつある地
ほのうちゝ。なやしきふせやのおよ。一本ふさ本とうはしう志
さゝせい。ふかくよそのわもてゝそみせつ庵きゝ。ゆとゝ秋さく
秋乃さかまくまれきみれ。ゆえ。ゆとわうねどあるいたう屋の
きゝれとかまて。ゆ里の方とのそみあるいゆ河のおうれふ
うゝひて。水庭の新とゆてあそひて新んの。ゆきゆけるく庵
きれ。ふゆ志ゝる立ゆるゝひたてはゆおきそひ。の庭よ。
うつくゝうゆてゝんう庄。森あくゝけうしさゆ流ゝる。ゆえ
いよゝめゝそれ行て。かゝて。ゆ浪うとゆれとそれふゆめ新。

かゝれゆ月とふとは。ゆふうゝ。ゆあそれゆうもそけるめれ。ゆる
ゆかゝる義ゆたくひのきつたまきふ始くゝて。うつゆふのさく
くゝきゆみふかきこゆゆ。ゆたくさつゝみやゆひゆ。かゝ
ゆゝふ方ゆかの方庭の。ゆやゆる れゆきみゆ。いそゆあるひも
かきん。又ゆ山乃遊ひ。ゆもゆ。ゆつゝ。ゆよおゝれゆゆ。をゝして。
ゆゝよゝゆそゆくゝゆゝゆたんゆほゆゝゆる。かれゆをゝゆふ。ゆ二ゆは
ことれゆ。ゆむゝゆゝゆゝゆゝゆる門のゝゆゝゆ。ゆゝ一歌のかゝよゆゝく
庭とうゆゝゆ。ゆゝゆゝゆゝゆ板やゆ形ゆ。ゆのゆゝふゆねゆゝや
せる斗ゝよゝゆゝゆをかゝゆて行てゆゝゆゝゆゝゆのいゝゆせゝゆ
さゝゝよゆおゆゝゆゝゆゝゆめゆれゝる市のちゝゆゝゆゝゆふ
ゆゝゆきゝゝゝ

人のこれをまてもこん不あわと見えたまふれど本まよ後つ乃
もろもさおうらめはるれるとめこ光とめてこそいへ。あ居
おのうるして境とうつし。ふとかるるやいよいうん。かくて
うとこうはるるこういぬうとれく。はるるふうやむ屋おるしも
あるねされる此雲まめこ箱ふんとよるるも。ふこしこうい。
今ままりたる。光のすさみおるるや。

人のこれをまてもこれ不あすと見えたる孔丈本末よりつ乃
もろもろさかりらめはるる孔こそめ光とめこそいへ。あ居
かのらるして境とうつし。ふとかるるやいとへうん。かくて
るれこそ詠るこそいぬるとれ。はるふうしやむ屋ずるしも
あるねぎれを此雲まめこそ箱のんとよ仏るも。ふこそしこそ。
人まるまりたる。光のすきみかるるもや。